阪神高齢者・障害者支援ネットワーク　ニューズレター第14号
（略称　支援ネットワーク）
発行　1996年3月30日
発行人
中島久矩　中辻直行　梁勝則
編　集　森なつみ

ひろば

事務局　〒653
神戸市長田区北町3-3
高齢者ケアセンター長田内
TEL 078-531-8394
FAX 078-575-8188

支援ネットの一年を振り返って

支援ネット設立から1年が過ぎました。震災直後の避難所で、高齢者のおかれた過酷な状況を見かねて始まったボランティア活動でしたが、全国の皆様に支えられて現在まで活動を続けることができました。今では支援者の数は1,200余名に上ります。この活動にご理解、ご協力頂いたことを心より感謝いたします。

振り返ると、高齢者・障害者の緊急避難所「サルビア」に18床のベットを入れ、20数名の高齢者を緊急保護し、3カ月を経た4月には元気な姿で送り出しました。また「サルビア」を全国へ発信することで、高齢者の置かれる状況と、支援の必要性を訴えることができました。そして夏には西区の最大規模の仮設住宅にテントを設営し、生活支援を開始。自治会づくりを手伝いながら「被災者の自立」へ向けて活動を展開してきました。

思えばこの一年余り、私たちが「できたこと」よりも、ボランティアに携わった私たちが「学んだこと」の方が大きかったのではないかと感じています。歴史を生き抜いてきたお年寄りの話、世代を超えた人間関係、弱者と呼ばれる人々のおかれている状況等々。普段では簡単には得られない貴重な体験をすることができました。そして私たちが見てきたものは、被災地のみならず、産業優先の戦後の価値観が落としていった、「人」不在の貧しい日本の社会の実態であることがわかりました。

現在被災地は、「被災者がもといた街に戻ることができるのか」ということが最大のテーマになっています。私たちが直接的にできることはわずかなことかもしれません。しかし被災者を孤独にしないためにも、今後も細々と活動を継続し、被災者に最も近いところから復興に携わってゆきたいと願っています。

今後も「神戸」を神戸だけに終わらせず、全国へと広げて行くことが私たちの使命だと感じています。震災が契機となり、「人」を大切にした地域づくりが全国へと広がってゆくこと、それが多くの犠牲をもたらした震災が生きてくる一つの道なのではないでしょうか。

支援ネットワークは今年も活動を継続します

3月10日に第3回世話人会がもたれ、平成八年度の活動について率直な意見交換がなされました。話し合いにおいて、いわゆる「災害弱者」の苦難に満ちた生活はここ数年間以上続くであろうことが予測され、またボランティア退潮ムードの中で各ボランティア団体の建て直しとネットワーク化が必要であることが強調されました。これを受け平成八年度もひきつづき仮設住宅支援を中心に阪神高齢者障害者支援ネットワークの活動を続けていくことが確認されました。以下は新年度活動概要です。

(参加者：石田、内坂、北島、佐野、島本、中島中辻、長、秦、秦（な）、馬袋、梁)

平成八年度の活動

専従体制

専従は4人体制でのぞむ予定です。事務局は引き続き島本が担当します。現場スタッフとして「ふれあい喫茶」の運営、ボランティアニーズに対するサポート活動は石田が担当します。現場の責任者としてボランティアコーディネーター、西ネットワーク代表を黒田がつとめます。4人目はまだ決まっていませんが、地元から募集する予定です。

拠点

経費節減のため大幅に拠点を変更します。事務局はケアセンターながたに移ります。JR新長田の宿泊用プレハブも4月には解消します。これに伴い宿泊スタイルのボランティア活動も終了します。現地の活動拠点としては、住人および行政の了解が得られれば、ソニー生命ボランティアグループ有志のご厚意で第7仮設住宅ふれあいセンターのすぐ脇にプレハブの事務所を建てる予定です。そこに専従一人が宿泊します。

予算

3月末で約600万円が残ります。これを活動の原資とします。1年間活動するとして月割りで50万円の予算になります。平成7年度は1カ月に約150万円の出費がありました。新年度からは前述のとおり地代、家賃が不要となり、またソニー生命ボランティアグループからの支援も今後継続されますが、ぎりぎりに見積もって月に75万円、余裕ある活動のためには月に100万円の予算が必要です。皆様のますますのご支援が必要です。

会員制

活動が長期化する中で、支援を継続してゆくための安定した組織づくりの必要性が出てきています。そこで今年度から新たに会員制を用いることになりました。

活動内容

1, 仮設住宅支援の継続

常駐スタッフの減少、地元ボランティア活性化の必要性、また自治会を中心とした住民自立の推進など様々な状況の変化が第七仮設住宅にも認められます。そこで今後私たちに求められるのは「直接支援からコーディネーターへ」の質的転換です。地元のボランティア看護婦の組織化による要介護者ケアの拡大も考慮しています。一年かけて、地域のボランティアが地域の高齢者、障害者や一人暮らしの人を支える仕組みを築き上げることができれば幸いです。とは言っても、ふれあい喫茶の運営、友愛訪問、安否確認、生活介護支援、心のケアなどといった地道な活動も継続していかなければなりません。色々なイベントのサポートや実施主体となることも要請されるでしょう。

2, ネットワーク化に向けて

【西ネットワークの再定義と機能化】

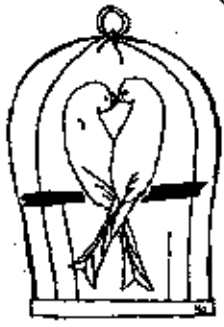
西区では既成ボランティアや震災ボランティアの様々な団体が入り乱れて活動しています。既成ボランティア団体のほとんどは元もとが西区社協傘下にあり、地味ですが安定した活動を続けています。

一方、社協が把握しきれない震災ボランティア団体の多くは西ネットワークに参加していますが、各団体ともパワー全開で一年間活動してきたためやや疲れ気味です。また西ネットワーク自身も急造で、その求心力は十分ではありません。三月末から四月にかけてボランティア活動やネットワークの意味論にまでおよぶ深い検討を経て、仕切直す予定です。

【友好団体との関係強化】

私たちの活動を理解し援助を惜しまない団体、グループが少なからずあります。今後も友好団体との協力関係を維持、拡大し全国レベルでのネットワークの支柱となることを祈念します。

支援ネットワークの日常活動およびひろばの発行のためには皆さまのご協力が不可欠です。是非とも新生した阪神高齢者障害者支援ネットワークの会員になって私たちを支えてください。「全国から神戸へ、神戸を全国へ」の精神がこれからも生き続けることを願っています。



世話人代表　中島久矩　中辻直行　梁勝則

“西神第７住宅”に暮らすひとびと

ボランティアによる安否調査を通して

昨年６月より、「ふれあいテント」が第７住宅で行ってきた戸別安否調査・ふれあい訪問のデータを検証すると、次のような居住者の姿が浮かび上がってきます。【１】お年寄りや１人暮らしの方の割合が非常に高く、【２】全体としては女性の数の方が多い。【３】高齢世代ほど有疾患率・入通院率ともに高く【４】そのうち全体の２割を訪問対象としている。ここでは、こうした居住者の状況を詳しく見ていく事とします。

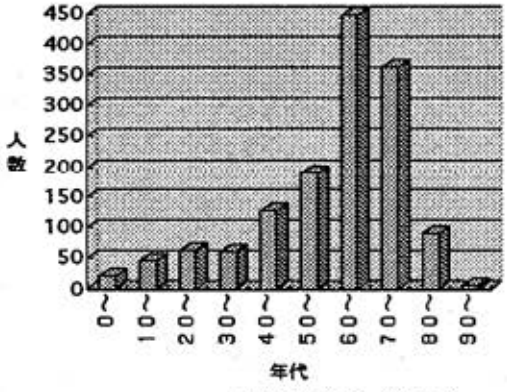


佐野　淳也

［１］　年代別の構成比　～６０代・７０代が最も多い～

全戸数は1060戸、そのうち入居している戸数は1000戸未満ですが、入居者の数は約1600名いらっしゃいます。

年代別に見ていくと、60・70代の割合が最も高く全体の約57%を占めています（図１）。「高齢化率」（65歳以上の人口に占める割合）は約48%で、全体の平均年齢は約59歳です（最年長は94歳）。これは、神戸市が仮設住宅２万７千世帯を対象に行った調査結果での、全体の仮設の高齢化率・約31%をも大きく上回っています（神戸市全体は約14%）。このことは、第７仮設が初期の第一次・第二次の募集から多く入ったため、それだけ高齢者の割合が高いことを示しています。ちなみに「独居老人」（65歳以上独居）の方の全人口に占める割合は約28%であり、これも神戸市の仮設全体の数字・約20%を大きく上回っています。



年代別構成　（図１）

［２］　男女比率　～65歳以上では男性４：女性６～

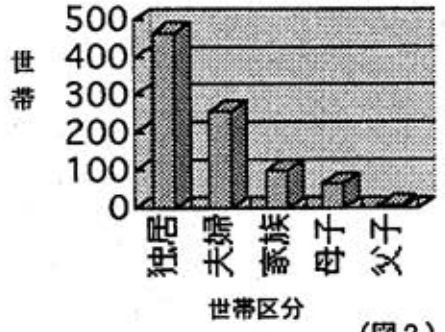
男女比率は60代を境に逆転し、65歳以上では男性４：女性６の割合となります（表１）。高齢者が多いため、全体でも女性の割合が高くなっています。

	全体		65才以上	
性別	人数	構成比	人数	構成比
女性	833	56.475	410	60.3
男性	642	43.525	270	39.7
合計	1475	100	680	100

男女比率　（表１）

[3] 世帯構成　～独居世帯が全体の半数以上を占める～

最も多いのは独居世帯で全体の約52%、次に夫婦世帯・約29%、家族世帯・約11%と続きます（図2）。母子世帯も多く父子世帯と併せると全体の約7.5%に上ります。また独居率は高齢になるほど高く、逆に家族世帯は50代以下の年代に多いのが特徴です。



（図2）

[4] 有疾患率・入通院率
～年齢に比例して上昇し、４０代より過半数～

疾患の有無が調査の中でわかっている方は972人で、全体の約6割ですがその中でわかることとしては、年齢に比例して有疾患率・入通院率ともに高くなっていくということです。全体では疾患有り・65%、入通院あり・65%となっていますが、60代以上ではこの値は疾患有り・85%、入通院あり・82%と変化します。

医療機関としては、隣接する第1住宅内の仮設診療所や近隣の医療機関に通院する方も多いのですが、行き慣れた病院を好む傾向や検査結果や主治医がある、などの理由から、地下鉄・バスを乗り継いで元の区の医療機関に通っている方も相当数います。

[5] ボランティアの対応　～全体の約２割が訪問対象～

現在わたしたちは、看護婦ボランティアによる医療・介護ニードの高い方たちに対する「ケース訪問」と、地域のボランティアによる話相手や安否確認を中心とした「ふれあい訪問」の２つの形態で訪問活動を行っています（表2）。

ケース訪問の対象者は70・80代がほとんどで、在宅酸素療法や、人工肛門の取り替えが必要なかた、アルコール依存症で「孤独死」の危険性がある方などが対象ですが、全体としては10件未満です。常駐及び通いの看護婦ボランティアにより簡単な介護や医療・生活面でのアドバイスを含めた訪問が行われています。

ふれあい訪問のケースは全体で約160件あり、週に１回や週に２回、また２週に１回のペースで、お顔確認やお話相手の訪問を行っています。訪問対象の８割近くが60代以上であり、約65%が独居世帯です。地元の主婦の方々を中心とした約20名の地域ボランティアによりこの活動は担われています。

内容	世帯数	構成比
ふれあい訪問対象者	162	18.49%
ケース訪問対象者	7	0.79%
訪問不要	707	80.70%

（表2）



全国キャラバンに参加して

事務局　島本　由美子

仮設住宅支援連絡会（注１）が活動展開中の全国キャラバンに参加しました。今全国では震災のことはどのように思われているのか肌で感じたい，そして日々事務局を担当する中で後方支援をしたいという方に現状を伝え、皆さんの善意をうまくコーディネートすることについて悩んでいたので、勉強のつもりで参加しようと思ったのです。が、いつのまにやら『仮設住宅の支援活動について』ということで話をしなければならないことになり、「はめられた」と思いました。
今回のキャラバンは『第２７回全国ボランティア研究集会』の中の一分科会として設けられました。この分科会には『阪神淡路大震災から学ぶ日常（平時）のつながりが緊急時に命をつなぐ』という題がつけられていました。

分科会の内容を決めるにあたって、話し合いを重ね（いや、一度だけだったかな？）、現在も支援活動をしている私達にとって、ただ救援時のボランティア活動のシステムやマニュアルのみを整備することにはしたくないな、ということになりました。そして今被災地、特に仮設住宅において問題になっていることを訴え、日頃からの『つながり』の大切さをうきぼりにし、それが緊急時に機能するシステムになるのだと話そうということになりました。それは神戸から全国に何かを返せることになり、神戸の一市民としてしなければならないことだと感じました。

当日は、会の前半で地震直後の支援活動から現在の仮設住宅における活動までを説明しました。震災直後の行政の人員配置ミスや、避難所から仮設住宅へ移す際のコミュニティのぶち壊し等多少辛口の意見も混ぜながら、ビデオやスライドを交え話を進めて行きました。会の後半ではみなさんに意見をだしてもらい、最終的に「日頃からのネットワーク作りの大切さ」という所に落ち着きました。早速この会の参加者の名刺をコピーしてネットワーク作りをして来ました。

今回初めて参加してみて、世の中にはこんなにボランティアをしていたり、関心を持っている方がいるのだということと（私は地震がおきる前まではボランティアとはまるで関わりのない世界にいたので）、社会福祉協議会の方の参加が多かったことに驚きました。そして、活気あるみんなの中でこの力が世の中を変えていくのではと、少々迫力に押されながら秋田を後のしてきました。神戸に着いてすぐに『ボランティア活動の検証と展望』（注2）の集まりに行き、こちらでも阪神におけるボランティアの迫力をビンビン感じ私もがんばらねばという思いになり休日を有効に使うことができました。

（注１）仮設住宅における様々な問題・課題をボランティア団体同士、連携をとりながら解決をするために、阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議のもとに結成された分科会。ボランティア団体が参加団体として全体会を構成し支援ネットも一参加団体です。
(注2)ボランティアのボランティアによるボランティアのためのシンポジウム等を持ち、たどってきた道筋を検証し、被災者がどう救われたか、自己満足から冷静・知的な活動評価へのステップとする会。

大内正男のボランティア日記

「なぜ来たのか」いい質問だが答える方は難しい。問われて語るのはおこがましいが、浜の真砂と五衛門は白波五人男である。

地震の大惨状を知って直ぐ飛んできたかったのだが、情況がそれを許さず、神戸へ行くことは私にとって一日千秋の想いであった。幸か不幸か想いは天に通じた。天は私に1月1日から仕事を取り上げ無職にしてくれたのです。

妻子の心中やいかに！おもんばかる気持ちに蓋をして私はこれ幸いと神戸行きに賛同を求めたのです。勿論家族は気持ちよく「大内家を代表して頑張ってきてね。」と励まし、暖かく送り出してくれました。

1月26日早朝、福島の冬は厳しい空気が凍る中、暖かい励ましは厳冬をもろともせずも晩をひた走り、西区仮設住宅群に到着した。なぜ西区か、それは朝日グラフを見て決めました。以後、現地で賢明に活動を続けられているボランティアの人たちに親身に勝るご指導を戴きながら今日に至っている。

暖かく送り出してくれた家族、温かく迎え入れてくれたネットワークの人たちには衷心感謝以外の言葉は見当たらない。

やがてくる春の暖かさもさる事ながら、私は与えられた期間、暖かさを大切に微力をもって役に立てれば幸いだと思っている。同居している男子達は素晴らしい。それが五人男なのである。神戸去りがたしの想いが日々募るばかりですが、私には待っているふる里や友人、そして掛け替えのない家族が有る。

貴重な瞬間に指名を感じながら最大の御薫陶を賜りたく願っている。

神戸には愛の息吹あれ、神の大いなる福音あれ。



ふれあい喫茶にて　（神戸新聞提供）

お知らせ

事務局から

いつも様々な形でのご支援ありがとうございます。3月は移行期でなにかと皆様にはご迷惑をおかけして、申し訳ありませんでした。

今のところ無料でお送りさせていただいております「ひろば」は、次々号からは会員制にともない、会員の方への無料配布となりますのでよろしくお願い致します。次号に詳しい案内を載せ、申込書を同封させて頂きます。

4月から事務所を移転し、電話番号・FAX番号も変わります。

〒653　神戸市長田区北町3丁目3番地　高齢者ケアセンターながた内
阪神高齢者・障害者支援ネットワーク事務局　（島本）

TEL　078-531-8394
（9：00～18：00　休みは不定休）
FAX　078-575-8188

（FAXはケアセンターと兼用になりますので、確実に宛名をお書きください。）

4月から休みを月8日不定休でとりますので、不在の場合はお手数ですが、翌日におかけ直しください。お急ぎの方は西区ふれあいセンター内へ連絡願います。

西区連絡先　TEL 078-961-2100　（9：00～17：00）
FAX 078-961-5888

ひろばに掲載したいこと、言いたいことは下記まで。

〒300-11　茨城県牛久市小坂町1963-60　TEL 0298-73-2334　FAX 0298-73-5280
ﾌｧｲ- ID GEF00142（送信の際はご連絡下さい）　秦なつみ

義援金ありがとうございました

敬称略　順不同　平成8年　3月15日現在（前号紹介分をのぞく）

大橋香世　国立医療病院管理研究所　ソニー生命保険株式会社　須藤恵子　新生病院　高橋ユリカ　黒石静子　フォルクルチャリティカップ　キョウトミプボウジョウユウビンキョクチョウ　高塚高校生徒会　大倉正臣　広田紀子　吉原雅昭　羽賀比登志　池袋聖公会日曜学校校長　浅井慎吾　福田治子　東京教区震災プロジェクト　柳沢伸子　北島裕子　小林正孝　米田和子　橋詰ヒサ

振り込み口座は　郵便預金　14390　49537411
名義　神戸長田高齢者障害者支援ネットワーク　会計　近藤純江
（ｺｳﾍﾞﾅｶﾞﾀｺｳﾚｲｼｬｼｮｳｶﾞｲｼｬｼｴﾝﾈｯﾄﾜｰｸ）